

平成31年度第2回 広島市教員等育成に関する協議会議事要旨

1 開催日時

令和2年1月17日（金） 9：00～10：30

2 開催場所

広島市役所本庁舎 14階 第7会議室

3 出席者

(1) 大学関係者・学校関係者・教育委員会

井口 あずさ	（比治山大学 言語文化学科 日本語文化コース 准教授）
石原 義文	（広島文教大学 教職センター長）
小山 正孝	（広島大学 大学院 教育学研究科長）
高西 実	（広島文化学園大学 学芸学部 子ども学科 准教授）
立上 良典	（広島工業大学 教職課程センター長）
田中 宏幸	（安田女子大学 日本文学科 教授 教職センター長）
胤森 裕暢	（広島経済大学 経済学部 教授）
土屋 英男	（広島国際学院大学 工学部 教授）
鶴田 一郎	（広島国際大学 教職教室 准教授）
戸田 浩暢（代理）	（広島女学院大学 人間生活学部 児童教育学科 教授）
西森 章子	（広島修道大学 人文学部 教育学科 准教授）
弘中 哲夫（代理）	（広島市立大学 情報科学研究科 教授）
福原 之織	（エリザベト音楽大学 教養・教職主事 音楽文化学科 教授）
佛圓 弘修	（広島都市学園大学 子ども教育学部長補佐）
向居 暁	（県立広島大学 人間文化学部 国際文化学科 教授）
島本 靖	（広島市小学校長会 代表（段原小学校長））
三浦 義之	（広島市公立中学校長会 代表（国泰寺中学校長））
田中 伸二	（広島市立高等学校長会 代表（美鈴が丘高等学校長））
中尾 秀行	（広島市立広島特別支援学校長）
荒瀬 尚美【座長】	（教育委員会事務局 教育次長（事）総務部長）
森川 伸江	（教育委員会事務局 学校教育部長）
野間 泰臣	（教育委員会事務局 学校教育部 指導担当部長）
松浦 宰雄	（教育センター 所長）
南 直子（欠席）	（広島市立幼稚園長会 代表（基町幼稚園長））

(2) 事務局

教育企画課長、教職員課長、指導第一課長、指導第二課長、特別支援教育課長、教育センター次長

4 意見聴取及び協議（公開）

(1) 教員の資質能力の向上について

ア 「指標の重点化」について

イ 今後求められる教員の資質能力について

(2) 教員の養成に係る大学・学校・教育委員会の連携について

ア 学校現場に関わる機会の創出について

(3) その他

5 傍聴人の人数

1名

6 資料

(1) 資料1 若手教員研修における重点化の具体的取組と取組段階の成果

- (2) 資料 2 特別支援学校における特別支援学校教諭免許状保有率の向上について
- (3) 資料 3 小学校英語教育の推進に係る指導体制等について
- (4) 資料 4 平成 31 年度「大学生による学校支援活動」の活動状況について
- (5) 資料 5 平成 31 年度「研究指定校公開研究会」への大学生の参加状況について
- (6) 資料 6 大学からの質問について

7 議事内容（要旨のみ）

出席者の主な発言は以下のとおり。

【○：構成員（大学関係者・学校関係者） ●：構成員（教育委員会・事務局職員）】

- (1) 「指標の重点化」について
資料 1 に基づき、事務局から説明。
- (2) 今後求められる教員の資質能力について
資料 2 及び資料 3 に基づき、事務局から説明。
 - 現在特別支援学級の担任をしている教員の特別支援学校教諭免許状の取得率はどの程度か。また、同教員に対し、どのような研修をしており、同教員の資質能力をどのように把握しているのか。
 - 小学校の特別支援学級の担任教員の免許状保有率は 22.9%、中学校は 31.3% である。全国平均が 30.8% であるため、全国平均と比較して小学校は下回り、中学校ではやや上回っている状況である。
 - 新しく特別支援学級の担当となった教員の研修については、年間 5 日の日程で行っており、子どもの実態把握の仕方、教育課程の編成の基本、授業づくりやキャリア教育等を内容としている。授業づくり研修では、経験豊富な現場の教員を指導者として、実践発表や、受講者への助言等を行っている。その他、希望する教員に対しての研修も設けている。
 - 指導主事による研修や、実地指導、要請訪問により、特別支援学級及び担当教諭の状況把握や、指導力向上に向けての指導を行っている。さらに、経験者も含めた全員を対象とした研修を年に一回行っており、特別支援学級の「特別的教育課程」の編成の仕方等について研修を行っている。
 - 特別支援学級の担任については、どのようになっているのか。
 - 学級及び担任の配置については、校長の職務権限となっており、教育委員会としては、適正な配置をするよう促している。特別支援学級においても、免許保有者や特別支援教育の視点を持った者を配置するよう指導・助言をしている。
 - 私の経験でも、特別支援学級の担任は、免許を保有している者や専門性に加え指導力の極めて高い者を配置している。ただし、何千人もの教員がいる中で、指導力の高低は校種に関わらず当然あることである。
 - 指導力の中には、大集団をまとめる力は若干劣るが、小集団においては非常に丁寧な指導をするという教員もいる。教員の特性をよく見て、適材適所、校内人事を行っている。
 - 教員の配置においては、一人一人の持ち味や能力をどのように生かして、発揮させるかということを考えることが第一である。

- 初めて特別支援学校や特別支援学級の担任となった教員には、本校(特別支援学校)の公開授業研究会に参加してもらい、授業のあり方、研究のあり方を学んでもらうなど、資質能力の向上に努めている。また、本校では最大限の努力をしながら、特別支援学校教諭免許取得の向上に向けた取組を進めている。これらにより、本校が特別支援教育の中心となってセンター的機能を十分に発揮できるように努めていきたい。
 - 小学校の免許と同時に中高の一種の免許を取るような学生が、小学校の教員となった場合、英語専科指導教員として勤務することがあるのか。
 - 本務者又は臨時的任用職員として学校に配置された場合、本人の希望等を考慮し、英語専科教員として配置する可能性はある。また、加配についても、本人の希望や学校のニーズに応じて対応している。
 - 小学校中学年の外国語活動は学級担任による指導となっており、学級担任が何を教えるかによって児童に身につくものは変わらと思うが、学級担任への研修や指導体制はどうなるのか。
 - 中学年では外国語に親しむ段階であるため、学級担任により、楽しく学習・活動することを重視している。研修については、外国語指導に長けた教員を毎年度文部科学省の研修に派遣し、その教員による伝達講習を行っている。また、中学校区で研究校を指定し、その成果を公開研究会で報告することにより、指導方法の普及を図っている。
 - 今年度まで5年間「グローバル化に対応した小学校英語授業力アップ研修」という研修を行い、全ての学校の教員の受講が完了した。来年度は、高学年の外国語科と中学年の外国語活動に分けて授業づくり研修を行うよう計画している。
 - 研修活動については、大学の活用を是非考えてみてほしい。
 - 外国語活動では、コミュニケーション能力、自己表現力、共感力、主体性が大事だと思うが、本市として、英語教育を通して、どのような子どもを育てようとしているのか。
 - 外国語でコミュニケーションができる能力を身につけることは、子どもたちの可能性を広げていくと考えている。国際平和文化都市を都市像とする本市においては、「自分の言葉で世界に平和を語れる広島人の育成」を目指して、様々な研究校等での取組を進めている。
- (3) 学校現場に関わる機会の創出について
- 資料4及び資料5に基づき事務局から説明し、大学から事前に質問があった項目(資料6)について回答。また、未来教師セミナーの学校見学について、資料により説明。
- 教員の仕事は、人の成長に直接関わることができる。喜びの非常に多い仕事にもかかわらず、ブラックな仕事だと思っている学生も多い。学校見学は、学生が直接自分の目で学校現場を見ることにより、学生の持つ学校現場のイメージを変え、教員を目指すモチベーションを高めることができる。また、学生を受け入れる現場の教員のやりがいにもつながるよい取組であり、今後も続けてほしい。
 - 大学の近隣の中学校で学校支援活動や、授業観察をさせてもらうことで、学生はモチベーションを高めて教育実習に挑むことができている。逆に中学生を大学に招いて体験活動をしてもらうようなことも少しずつ取り入れており、今後も学内で情報共有をしていきたい。

- 教員を目指す学生を増やすため、学校は研修や教育実習等において、大学と連携を取りながら、積極的に学生を受け入れることが重要である。
 - 本学においても、最近のマスコミの影響で教職離れが進んでおり、学生が学校現場に入り、直接先輩の授業や実践を見る機会は非常に重要である。教員の資質能力として、特別支援教育や外国語教育と同じく、ICT やデータ活用に関する素養も今後求められるため、大学としても力を入れていきたい。やはり、どの校種、どの学級であっても、子どもが好きな人が教員になってほしいので、大学・学校・教育委員会が連携して、教員を育て、子どもを育てていきたい。
 - 私学で特別支援学校教諭免許状を取得できる課程を設置するには、まず担当教員の確保が非常に難しく、実質的に困難である。また、学生が教育実習の際に学校から、香川県の教育委員会が作成している「さぬきの授業 基礎・基本」という冊子をもらった。授業づくりの基本などがよくまとめられており、教員の仕事内容がイメージ化されたことで、学生の教員志望が強まった。このような教育実習の事前指導において、学校からいただく助言は、学生にとって励みになっている。
 - 確かに学校はブラックであるということが学生の間に広まっているが、授業見学をさせていただくと学生はやはり教員になりたいという思いを強くする。今後も積極的に学校見学等で学生を受け入れてほしい。
- (4) その他
- 「広島市の学校におけるいじめ防止対策及び働き方改革推進フォーラム」について事務局から案内。